

女性研究者研究活動支援事業

平成24年度予算案 : 727 百万円
(平成23年度予算額 : 952 百万円)

※旧科学技術振興調整費継続分を除いた額
平成24年度予算案: 443 百万円
(平成23年度予算額 : 221 百万円)

現状・課題

- ・我が国の女性研究者の割合は、欧米の先進諸国と比べ、未だ著しく低い水準にある。
- ・第4期科学技術基本計画に掲げた期待される女性研究者の採用目標「自然科学系全体としては25%（理学系20%、工学系15%、農学系30%、保健系30%）を早期に達成するとともに、更に30%まで高めることを目指す」は未だ達成されていない。（H21：24.2%）

第3次男女共同参画基本計画

（平成22年12月閣議決定）

女性研究者が研究と出産・育児・介護等とを両立し、研究を継続するための保育支援、研究支援、復帰支援、慣行の見直しなどの環境整備の充実など、女性研究者が働きやすい環境を醸成する。

第4期科学技術基本計画

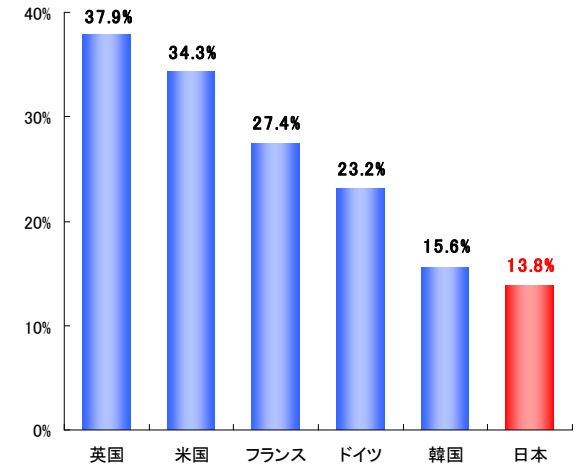
（平成23年8月閣議決定）

国は、女性研究者が出産、育児と研究を両立できるよう、研究サポート体制の整備等を行う大学や公的研究機関を支援する。

事業の目的

女性研究者がその能力を最大限発揮できるよう、出産・子育て・介護と研究を両立するための環境整備を行う取組を支援する。

主要先進国における女性研究者の割合



（出典例）

「総務省 科学技術研究調査報告」(日本)

「NSF Science and Engineering Indicators 2006」(米国)

事業の概要

○対象機関 : 大学、独法研究機関等

○新規選定 : 10機関程度

(H23: 新規10機関→H24: 新規10機関、継続10機関)

○補助期間 : 3年間

○補助上限額 : 1機関当たり2,200万円

○支援内容 :

- ・支援活動を推進するコーディネーター等
- ・出産・子育て・介護期間中の研究活動を支援する者の雇用経費等を支援する。

特別研究員事業

～出産・育児による研究中断からの復帰支援（RPD）に対する支援の拡充～

平成24年度予算案:608百万円
(平成23年度予算額:565百万円)
※運営費交付金中の推計額

優れた男女の研究者が、出産・子育て等から円滑に研究現場に復帰できるよう研究者個人に対して研究奨励金を給付する特別研究員－RPDを平成18年度より開始。 ※RPDの「R」は「Restart」の頭文字

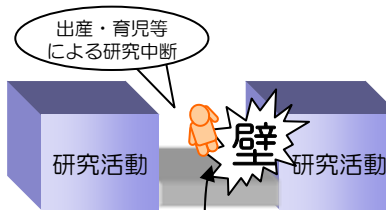
政策

「第3次男女共同参画基本計画」
(H22.12.17 閣議決定)

出産・育児により研究活動を中断した優れた研究者が円滑に研究現場に復帰できるよう、**研究奨励金の支給等の制度を拡充**する。

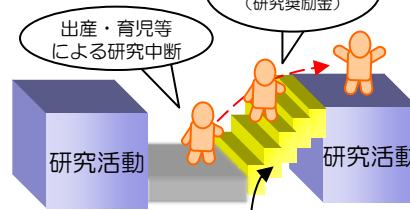
○RPDのイメージ

<従前>



出産・育児等で研究現場を離れると、その間に研究業績が上げられないため、**次の研究ポストを得ることが困難**

<支援開始後>



復帰支援(研究奨励金)
出産・育児から復帰する研究者を対象に研究奨励金(PD相当)を支給し、**円滑に研究現場に復帰**

○採用数の推移

単位(人)

	H20	H21	H22	H23	H24(予定)
新規	50	40	40	50	50
継続	30	50	80	80	90
合計	80	90	120	130	140

※平成22年度より採用期間を2年から3年に延長

研究活動の再開を目指すより多くの優秀な研究者を支援するには、RPDのさらなる拡充が必要。

特別研究員 - RPD

【対象: 研究中断から復帰する博士課程修了者等、月額:36.2万円、採用期間:3年間】
採用人数 130人 ⇒ **140人** (565百万円 ⇒ **617百万円**)

出産・育児と研究の両立の実現 → 多様で優れた研究者の養成・確保